

弘前の魅力を伝えたい! Maison du Japonでの宣伝イベント

今回の海外PBLでは、弘前の魅力を伝えるイベントを実施。昨年度の海外PBLのイベントでもお世話になった、ボルドーの和風ブティック「日本館 (La Maison du Japon)」の店主、進藤さんに協力していただき、日本館の地下をお借りし、1日限りの展覧会を開催しました。弘前の伝統工芸品の展示やワークショップなどの実施で、ボルドーの人たちに弘前への親しみを持ってもらうとともに、言葉も文化も異なる環境をうまく活用した行動、実践、情報発信の力も養おうというのが主眼となりました。



展示スペースにて

弘前を身近に感じてもらうと伝統工芸品などの展示を行いました。最初に弘前のどのようなことを知ってもらいたいと考え、「弘前の伝統と現代の融合」というテーマのもと、展示するものを自分たちで選びました。積極的なコミュニケーション、情報を伝える力、知らない環境下で主体的に行動する力など個人としての成長にも大きく影響しただけでなく、弘前の地域としての魅力を発信することで、相互の地域の結びつきのために小さな一歩を踏み出すことができたと思います。



▲こぎん刺し:手作業で作られていると聞くと、その緻密さと正確さに驚く来場者が多くいました。来場者に機械で作ったと勘違いされていたことから、文章ではまだまだ説明不足であったという反省点がありました。



▲津軽塗:津軽地域の代表的な工芸に来場客は興味を持ってくれました。津軽塗柄の折り紙やネイルも展示したところ、年代が若ければ若いほどそちらに関心をもち、逆にお盆など伝統的な工芸品は、年配の方に好まれる傾向にありました。



▲会場の様子:常に人で賑わい、多くの人が弘前の伝統に興味を持ってくれた様子でした。目を留めてもらう品々は年代によってばらつきもあり、「自分たちが楽しいと思えるもの」と「実際に人が見ているもの」とのギャップを学びました。

魅力がたくさんある街弘前。もっとたくさんの人に弘前を知ってもらい、外国からの観光客も増えてほしい、実際に来てさらに弘前を好きになってもらいたい。自分たちが暮らす街に対する気持ちもより強まる経験となりました。(小野)

折り紙ワークショップ



イベントの醍醐味のひとつのワークショップでは、折り紙教室を開催しました。日本の遊びに触れてもらうだけでなく、フランス語での交流にも挑戦しました。ボルドーの人たちは今時のものよりも、伝統的な日本文化を好むようで、津軽塗を施した折り紙を率先して使ってくださいました。ボルドーは伝統が厳しく守られているだけあり、保守的な傾向にあるのだということを実際に感じました。(小笠原)



◀難しい折り方を個別で指導。言葉だけではなく、表情や身振り手振りでのコミュニケーションも楽しみました。(写真左) 参加者同士で折り紙の教え合い。地域の人同士の交流の場を設けることができたという予想外の嬉しさも。(写真右)

三味線コンサート



今回の海外PBLイベントには、偶然三味線サークルのメンバーが2人かかわっていたので、三味線コンサートもやることができました。聞くところによると、ボルドーの方は音楽が好きの方が多くようです。「三味線というものは知らなかった。ヨーロッパに広まってほしい」というコメントもアンケートにありました(後述)。日本の伝統音楽ということもあり、たくさんの方に興味を持ってもらいました。

40分のコンサートを計3回、コンサート前には会場の外で客寄せライブを行い、この日だけで推定300人くらいの方に聞いてもらいました。

演奏には伝統曲(津軽じょんから節、弥三郎節など)やサークルのオリジナル曲に加え「フレンチポップス」も取り入れ、迫力を持たせながらも楽しく聴いてもらいました。毎回コンサートが終わると、興味を持ったフランスの方と交流することができ、津軽の文化によって国際交流が生まれることに誇りを感じました。(相澤)

イベントに関するアンケート結果

300名近くの来場者があり、そのうち100人ほどがアンケートに回答してくれました。

三味線コンサートと折り紙ワークショップが特に評価が高く、目以外で楽しんでもらうことの重要性が分かりました。自分たちの「弘前の代表」としての振る舞い方、自分たちの地域の魅力を伝えさせる実力などを客観的に知ることができました。

「ワークショップでは親切な対応をしてもらいました。ありがとう」
「三味線というものは知らなかったのですが、とても気に入りました」
「弘前に行きたくなりました。展示物もとても綺麗でした」
「とても綺麗で、折り紙が好きになりました」 等々

ボルドー街歩き

ボルドーには弘前大学の協定校があります(4面にて後述)。その日本語サークルのメンバーがガイドを務めてくださり、そのガイドのもとボルドーの街歩きをしました。ボルドーを自分の足で踏みしめながら歴史を学ぶことで、弘前大学とゆかりのある場所に親しみをもちただけでなく、ただ眺めるだけでは知ることのないような小さな特徴を見つける姿勢を第一に、街の様々な場所を見学しました。



◀グロス・クロシュ
この門は「大鐘楼」という意味。ボルドーのシンボルで、市章にも採用されている。かつては敵襲などを見張るために使われた。城門自体は13世紀からあり、すぐ目の前が外堀で15世紀に一度破壊されたのち、18世紀にラロックにより再設計された。



◀サント・カトリーヌ通り
全長1145メートル。ヨーロッパ最長の歩行者専用門路。両脇に商店が軒を連ねる。19世紀風の建築物が立ち並び、通りの終わりにはアキテヌ門が歩行者を出迎える。

街並みの小さな特徴 アーチ型の門



中心地から少し離れた小道には、石造りのアーチ型の門が非常に多く見かけられます。石造りは災害への耐性をつけるため、そしてアーチ型の門は馬車が通るためのものです。腐りやすく塩味と相性の悪い肉の代わりに、大量の塩鱈を倉庫に備蓄したと言われていました。(小野)